

**第153号****宮城県亘理農業改良普及センター**

〒989-2301

亘理郡亘理町逢隈中泉字本木9

TEL 0223-34-1141

FAX 0223-34-1143

E-mail wrnokai@pref.miyagi.lg.jp

<https://www.pref.miyagi.jp/site/wrnk/>

令和7年1月15日（いちごの日）に、山元町の株式会社ごえん、株式会社燦燦園、山元いちご農園株式会社から輸出専用パックに包装されたいちごが香港に向け今期初出荷されました。

消費者体験の意義**宮城県亘理農業改良普及センター 所長 大沼欣生**

農林水産省によると、令和6年の農林水産物・食品の輸出額は過去最高の1兆5,073億円を記録し、うち農産物の輸出額は過去最高の9,818億円で、前年から8.4%増加しています。いちごは、青果物の中で、りんご、ぶどうに次いで3番目に多い輸出額となり、その品質の高さから、アジア圏市場で人気が高まっています。

宮城県でも県内の生産者などと連携して令和5年からいちごの輸出が行われており、令和6年には、タイなど5か国に約30トン輸出されました。今年は1月15日から香港やタイ等に向けて輸出が始まり、6月上旬まで続けられる予定です。

さて、1月と2月は一年の中でもいちごが最も美味しくなる時期と言われており、まさに旬を迎えています。先日、友人といちごの観光農園を訪れる機会がありまし

た。農園の方から、美味しいいちごの見分け方や摘み取り方を教わり、いちご狩りをスタートしました。最初は収穫に夢中だった友人でしたが、やがて品種による草姿の違いや、培地が土ではないことなどに気づき、興味を示していたのが印象的でした。

宮城県が策定した「第3期みやぎ食と農の県民条例基本計画」（令和3年度～令和12年度）では、人口減少や高齢化が進む中で、食と農業・農村に対する消費者の理解と共感を深め、多様な人材による協働の重要性を掲げています。輸出は人口減少が進む中で、食料の供給能力の維持が期待できる施策の一つであり、重要な取組です。そして、いちご狩りのように消費者に収穫体験を提供することもまた、農業に対する理解を深め、共感を育む重要な取組だと改めて思いました。

〈令和6年度 プロジェクト課題 活動紹介〉

名取市下余田2期地区における農地整備を契機にした地域農業の発展（令和5～6年度）

名取市下余田2期地区では、農地整備により水田を大区画化し、担い手に集積して作業の効率化を図ろうとしています。当普及センターでは、担い手となる新たな農業法人の設立や地区内における高収益作物の収益拡大に向けた支援を行っています。

地区の担い手である高柳生産組合の法人化の話し合いに、若い担い手も新たに加わりました。話し合いは定期開催され、法人の目指す事業内容について事例を示しながら協議を重ねました。

また、高柳生産組合や水田でのえだまめ栽培者、活性化推進委員会役員がメンバーとなり担い手部会が設立（令和6年8月）され、県内の農業法人への先進地視察や現耕作者を交えた農地集積等の勉強会が開催される等意見交換が活発に行われました。

当プロジェクト課題は2年間の計画でしたが、ほ場整備の面工事が始まっていないことや新法人の設立が令和9年度に予定されていることから、継続支援してまいります。



高柳生産組合の話し合い



先進地視察研修

土地利用型経営体における施設園芸品目の定着（令和6年度）

岩沼市の農事組合法人林ライスでは、市内の相野釜ハウス園芸組合が取り組んでいたメロン「クールボジャ」の栽培を令和5年から引き継ぎ、令和6年も相野釜ハウス園芸組合の元組合長の指導を受けながら技術の習得を進めました。同法人では、メロンの栽培が初めてであり、高度な栽培技術の定着が必要となるため、当普及センターでは、栽培マニュアルの作成を中心とした支援活動を行いました。

元組合長から匠の技を聞き取りするとともに、従業員と共に作業を行いながら管理のポイントを記録し、視覚で分かるように整理しながら栽培マニュアルの作成を進めました。

高温の影響で収穫間際に株の萎凋症状が発生しましたが、水管理の改善を指導することで対策を図り、予約数量を無事販売することができました。

栽培マニュアル作成後、全従業員に対して勉強会を開催し、元組合長の指導と併せて、技術のポイントについてマニュアルを確認しながら取り組んでいくことのできる体制が構築されました。



匠の技を聞き取り



クールボジャの収穫

気候変動に対応したいちご栽培管理技術の再構築（令和6～7年度）

近年、夏季の高温はいちごの収量に大きく影響しています。令和5年夏の高温では、開花の大幅な遅延や不揃いが生じて、年内から収穫できない生産者が多くなりました。また、これまでよりも病害虫の発生が多く、対策に苦慮するようになってきています。

いちご団地が稼働して12年となり、後継者への世代交代が進んでいる中、このような気候変動下において、安定したいちごの栽培技術が求められます。今後は、親世代から引き継がれた栽培技術や管理方法を、気候変動に合わせて再構築していく必要があることから、本年からの活動では若手担い手を対象としていちごの親株を含めた育苗期間の施肥、花芽分化後定植の適正化、害虫の発生に対応した天敵等を活用した総合的病害防除管理の定着を図っています。

今年の取組では、育苗期の施肥管理によるスムーズな花芽分化と年内収穫が実現できています。春先に向けては新たな天敵を使った防除の効果を確認し、適切な防除方法の普及を図り、生産安定と産地発展に向けて支援していきます。



育苗資材の定植後生育確認



生産ハウス病害虫の確認

さつまいもの産地育成（令和5～6年度）

株式会社やまもとファームみらい野は、育苗ハウス、移植機、収穫機、調製施設、大型貯蔵庫を有した大規模生産で、市場出荷に加え、干し芋の製造、令和3年からは香港に輸出を行うなどさつまいもの生産拡大に取り組んでいます。また、株式会社おひさま村は、令和6年に直進アシストトラクタや収穫機等を導入し、機械化体系による規模拡大、貯蔵時のロス率の低下に取り組んでいます。

当普及センターでは、先進地に栽培方法を聞き取りして情報提供を行うとともに、土壌分析に基づく施肥設計、育苗、定植、病害虫と雑草の防除、収穫作業、貯蔵管理について技術支援を行いました。その結果、太くて節間の短い優良な苗生産、定植の精度向上、雑草の防除、収穫作業の効率化、貯蔵管理の適正化により、安定生産に繋がっています。



定植の精度向上支援



収穫の効率化支援

トピックス

みやぎ農業未来塾「農業知識向上講座」を開催しました

令和6年11月25日、当普及センターを会場に、「みやぎ農業未来塾【農業知識向上講座】」を開催しました。本講座は巨理名取地区農業士会と共催し、経営及び雇用に関する基礎知識の講演や、農業士と新規就農者の意見交換を実施したもので、新規就農者及び農業士13人が参加しました。

講演では、中小企業診断士・社会保険労務士の鈴木大輔先生から、農業経営分析入門及び雇用に関する基礎知識について話をいただきました。参加者は真剣にメモをとりながら聴講していました。

意見交換では、新規就農者が抱える悩みについて、農業士から具体的なアドバイスが提供されました。意見交換後には、参加者同士で連絡先を交換するなど活発な交流が見られました。

全体を通じて、参加者からは、「特に労災保険についての話は、新たな気づきがあった。」、「他の新規就農者の営農の様子を聞くことができて参考になった。」などの感想が寄せられました。



講演



新規就農者と農業士の意見交換

地域計画がまもなく策定されます

農業経営基盤強化法の改正（令和5年4月）に伴い、地域計画の策定が義務付けられたことで、管内の各市町においても地域計画の策定作業が進められています。

昨年度から、地域ごとに協議の場が開催され、農業従事者の減少が進む中、今後の地域農業の在り方や農地の維持について話し合いが進められてきました。

管内は、東日本大震災後の復興に伴うほ場整備事業により、沿岸部での大区画化が進みましたが、担い手の高齢化が課題となっています。一方で、山手の西部地区では、作業効率の悪い小区画水田や耕作放棄地などの課題を抱えています。これらの課題解決に向けて、協議の場で熱心に話し合いが続けられてきました。

本年度の秋以降、各地区では、話し合いの内容を反映させた地域計画（案）の説明会が開催され、まもなく2市2町38地区の地域計画が取りまとめられます。この地域計画をきっかけに令和7年度以降、新たな地域農業づくりが進められることになります。



協議の場



地域計画（案）の説明会

しゅんぎくの新規作付、作付拡大を支援しています

管内のしゅんぎくは、昭和40年代初め頃から亘理町を中心に栽培が始まり、生産量は年間90トンにのぼります。周年出荷の産地として、消費者・実需者からの人気も高く、主に京浜や仙台市場に出荷されています。

しかし、最近は生産者の高齢化により産地維持が課題となっているため、令和6年度からJAみやぎ亘理と連携し、新規作付者、作付規模拡大者を募り、ほ場、出荷施設視察研修会や栽培に係る研修会、定期的なフォローアップ巡回等を通じて支援を行ってきました。

新期作付者のうち1人が2aでしゅんぎくを栽培し、令和6年11月から出荷を開始しました。「秋冬期に収入が得られ手応えがあった。今年は作付を倍増したい。」との嬉しい声も聞くことが出来ました。

当普及センターでは引き続き基礎的な栽培技術の情報提供等を行いながら、既存の園芸産地の維持・拡大を継続して支援していきます。



しゅんぎく視察研修会（亘理町）



新規作付栽培状況（山元町）

若手りんご生産者を対象にしたりんごせん定講習会を開催しました

亘理名取地域は、県内有数のりんご産地で後継者が育ってきており、若手りんご生産者は日ごろから技術研鑽に熱心で自主的に技術交流を行っています。

令和7年1月17日に若手りんご生産者を対象にしたりんごせん定講習会を開催しました。当日は11人の若手生産者が参加しました。

管内のベテラン生産者が講師となり、わい性台「ふじ」とマルバカイドウ台「ふじ」を対象に、樹形の作り方やせん定の手順を解説しながら実演が行われました。

参加者から、結果枝の作り方や幼木のせん定など多くの質問が出され、講師から丁寧な解説がありました。

当普及センターでは、今後も若手りんご生産者の活動に対して支援を行っていきます。



樹形の作り方の解説



幼木のせん定の検討

お知らせ

祝・受賞

齋藤勇紀氏、「令和6年度全国優良経営体表彰」で「全国担い手育成総合支援協議会会長賞」を受賞

亘理町の齋藤勇紀さんが、農林水産省及び全国担い手育成総合支援協議会共催の「令和6年度全国優良経営体表彰」の「経営改善部門」において、「全国担い手育成総合支援協議会会長賞」を受賞されました。

本表彰は、自らの農業経営の改善、先進的な生産技術の活用、6次産業化、消費者ニーズを踏まえた独自の市場開拓や農業の「働き方改革」への取組等が対象となるもので、齋藤さんは、これまで水稻を主体に、地域農業の受け皿として生産活動に取り組み、さらにほ場整備事業を推進するための土地利用調整推進協議会長等を歴任するなどの活動が評価されました。齋藤さんの今後、益々のご活躍を祈念いたします。



齋藤さんとご家族



県農政部長（右）から表彰状授与

令和7年産いちごの輸出が開始されました！（表紙写真）

輸出3シーズン目の令和7年産では、6か国・地域に、山元町や亘理町を含む県内5市町の生産者が育てたいちご約50トンの輸出を目指しています。

この記事のほか、亘理地域の水稻、麦、大豆等の栽培技術情報や、地域の話題、当普及センターの普及指導活動に対する有識者等による外部評価の結果についてなど、当普及センターのホームページに掲載していますのでご覧ください。

亘理農業改良普及センターホームページ →

